

安曇野市環境基本計画

～ みんなで安曇野の環境を考えよう～

平成 24 年度年次報告書

平成 25 年 3 月

安曇野市

- 目 次 -

1 平成 24 年度の取り組みの概要	2
2 平成 24 年度の取り組み結果	3
2.1 環境基本計画推進会議	3
2.2 安曇野環境市民ネットワーク	13
2.3 環境基本計画庁内調整会議	15
2.4 環境審議会	16
2.5 安曇野環境フェア 2012	17
3 行動計画実施結果	20
3.1 行動計画について	20
3.2 重点プロジェクトの一覧	20
3.3 各重点プロジェクトの結果	23
4 次年度へ向けて	35
4.1 市全体のテーマの進行	35
4.2 行動計画の検証・改訂	35
4.3 重点プロジェクトの推進	35
4.4 その他、推進会議委員（および事務局）からの意見等	37

【参考資料】

- 1 環境基本計画の推進体制と進行管理
- 2 環境基本計画推進会議名簿
- 3 写真アルバム
- 4 イベント参加団体一覧
- 5 重点プロジェクトの取り組み状況

はじめに

私たち安曇野市は、平成 19 年度に、環境基本法に基づいて、平成 20 年度から 29 年度を計画期間とする安曇野市環境基本計画を策定し、以来、環境基本計画推進会議が計画の実施を推進すると共に、進捗状況の確認と評価を重ねてまいりました。

迎えた当平成 24 年度は、環境基本計画の中で、計画期間の中間点として、施策の達成状況を確認し、必要に応じて計画の修正をおこなう年度と定められております。くわえて基本計画策定時から 5 か年目ともなり、この間に、東日本大震災や原発事故等も含めて、世界と日本、そして安曇野を取り巻く環境や環境に対する価値観は、様々に変化をしておりますので、これらも勘案をして、私ども環境基本計画推進会議は、年次の環境基本計画の推進に加えて、現在の情勢や、環境に対する価値観に沿ったものに見直す、中間見直しの作業を付加して活動し、先般、安曇野市環境審議会に対し、安曇野市環境基本計画中間見直し報告書を上程し、ご承認を戴きました。

安曇野市環境基本計画推進に関する諸施策の達成状況は、本年度も大旨計画に沿い、着実に進捗していることを確認し、良好と評価を致しました。

環境に関する取り組みは、倦まずたゆまぬ息の長い取り組みが肝要です。5 か年間の成果と反省を踏まえ、更に諸情勢の変化をも勘案し中間見直しを図った新たな計画を、一步一步前進させられるよう、お互いの努力をご期待申し上げます。

安曇野市環境基本計画推進会議
会 長 千 國 温

1 平成 24 年度の取り組みの概要

平成 19 年度に策定された安曇野市環境基本計画（以下「環境基本計画」という。）では、平成 20(2008)年度から平成 29(2017)年度までを計画期間と定められました。

平成 24 年度は、環境基本計画の中で、計画期間の中間点として見直しをおこなう年度と定められており、施策の達成状況の確認と修正、追加をおこないました。

また「安曇野環境市民ネットワーク」の会合も開かれ、情報交換や交流といったネットワークとしての基礎固めをおこなってきました。公募による実行委員が中心となり、ネットワークの協力で開催されたのが、5 回目となる「安曇野環境フェア 2012」です。今年も多くの方で賑わいました。

表 1 に、平成 24 年度における取り組みの概要を示します。

表 1 平成 24 年度の取り組みの概要

区 分	名 称	内 容
推進体制	環境基本計画 推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・計 9 回の会議を開催した。 ・年次計画の策定、進捗状況の把握、年次報告書のとりまとめをおこなった。 ・中間見直しをおこなった。
	安曇野環境市民 ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野環境フェア 2012 の開催協力をおこなった。
	環境基本計画 庁内調整会議	<ul style="list-style-type: none"> ・中間見直しについて確認した。
	環境審議会	<ul style="list-style-type: none"> ・中間見直しについて確認した。
イベント等	安曇野環境 フェア 2012	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年 10 月 6 日、7 日の 2 日間にわたり開催した。 ・過去最多の 70 団体・個人等による出展があり、2 日間で約 1,300 名の方が来場した。

2 平成 24 年度の取り組み結果

2.1 環境基本計画推進会議

2.1.1 会議の開催状況

環境基本計画を推進する主体である「環境基本計画推進会議」は、市民・事業者・行政の取り組みの施策・事業における提案、計画推進のための啓発活動や支援、進捗状況の点検・評価と年次報告の作成を主な目的としています。委員は、事業団体の推薦を受けた者、環境保全活動団体の推薦を受けた者、公募により選考された市民、市長が必要と認められた者（環境基本計画策定委員経験者）からなる 15 名で構成されています。

平成 24 年度は「環境基本計画」の中間見直しを中心に、9 回の推進会議と 6 回の幹事会を開催しました。また、このほかにもワーキンググループ（WG）ごとの会合も開かれています。

WGの編成を表 2 に、推進会議等の経過を表 3 に示し、重点プロジェクトの実施状況については、「3-3. 各重点プロジェクトの結果」にまとめました。

表 2 ワーキンググループ（WG）の編成

WG名	対象の重点プロジェクト
自然・環境学習	生物多様性を維持する 森づくりを推進する 環境について教え学び、取り組む仕組みづくり
景観・まちづくり	緑化による環境負荷の低減 水景観と歴史・文化遺産を活かしたまちづくり
資源・エネルギー	豊かな地下水を保全する ごみを減らそう
農業	耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る 地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる
地球温暖化対策	CO ₂ 削減目標を設定 環境マネジメントシステムの導入

表 3 安曇野市環境基本計画推進会議の経過

日 時	会議名称	内 容
平成 24 年 4 月 24 日	第 1 回 推進会議	・本年度の進め方および日程について検討した。 ・本年度の実施計画について検討した（WGごと）。
5 月 15 日	幹事会	・中間見直しの検討範囲について確認した。
5 月 22 日	第 2 回 推進会議	・本年度実施計画書について検討した。 ・「市全体のテーマ」展開方法について検討した。
6 月 19 日	幹事会	・重点プロジェクトについて確認した。 ・中間見直しの方法について検討した。
7 月 17 日	第 3 回 推進会議	・中間見直し（具体的な取り組み）について検討した（WG・全体）。
8 月 17 日	幹事会	・重点プロジェクトについて確認した。 ・「具体的な取り組み」について検討した。
9 月 4 日	第 4 回 推進会議	・中間見直し（具体的な取り組み）について検討した（WG・全体）。
10 月 10 日	幹事会	・見直し成果のまとめについて検討した。
10 月 16 日	第 5 回 推進会議	・本年度実施計画書について確認した。 ・中間見直し（具体的な取り組み）、見直し報告書について検討した。
11 月 6 日	幹事会	・中間見直し（具体的な取り組み）、見直し報告書について検討した。 ・会議進行日程について確認した。
11 月 20 日	第 6 回 推進会議	・中間見直し（具体的な取り組み）、見直し報告書について検討した。
12 月 5 日	第 7 回 推進会議	・中間見直し（具体的な取り組み）、見直し報告書について検討した。
平成 25 年 1 月 22 日	第 8 回 推進会議	・本年度の年次報告書（案）について検討した。
2 月 28 日	幹事会	・本年度の年次報告書（案）について検討した。
3 月 12 日	第 9 回 推進会議	・中間見直し報告書について確認した。 ・本年度の年次報告書（案）について検討した。

2.1.2 会議の成果

(1) 「市全体のテーマ」について

平成 22 年度の推進会議において決定した「市全体のテーマ」を、24 年度も引き続き推進しました。

「市全体のテーマ」とは、安曇野市の環境をより良くするために、市民・事業者・行政の各主体が積極的に取り組む共通テーマであり、共通の目標に向かって各主体が取り組むことにより、目に見える形で成果が上がることを期待しています。「市全体のテーマ」を現在進行中の重点プロジェクトとリンクさせるとともに、環境フェアや各種生涯学習講座との連携をはかって目に触れる機会を増やすことにより、市民など様々な人々の関心を高め、取り組みへの機運が高まることを目的としています。

「市全体のテーマ」は、以下の 2 つです。

<p>【年次テーマ】安曇野の水を知り、守り、育む 【長期テーマ】地球温暖化防止にみんなで取り組む</p>
--

各テーマの概要は、次のページのとおりです。

年次テーマ 『安曇野の水を知り、守り、育む』

【選定の理由】

- ・ 水は私たちの生命の基盤であるとともに、安曇野の風土や産業を成り立たせている根源的な存在です。安曇野と言えば水をイメージするほど、安曇野と水は密接な関係があります。
- ・ 水に恵まれた安曇野に暮らす私たちは、ふだんはあまり水を意識していませんが、世界を見渡せば日々必要な水にも事欠く人々の方が圧倒的多数です。水をめぐって争いが起きるほど、安全な水の確保は重大な問題です。
- ・ 日々使っている水を見つめ直し、豊かな水を後世へ守り伝えていくために、みんなで取り組みます。

【本年度の取り組みの結果】（一例です）

安曇野市地下水保全対策研究委員会の指針報告

安曇野市地下水保全対策研究委員会により作成された「安曇野市地下水資源強化・活用指針」が、8月27日、市長に報告されました。



安曇野市地下水資源強化・活用指針

長期テーマ 『地球温暖化防止にみんなで取り組む』

【選定の理由】

- ・ 地球温暖化による気温の上昇はすでに実感として感じられるようになってきており、地球温暖化防止は地球全体で取り組むべき課題と言えます。
- ・ 地球温暖化は地球規模の環境問題ですが、防止のためには日々の暮らしや営みの中で地道に取り組む必要があることから、安曇野市環境基本計画の期間を通じた共通のテーマとして、継続的に取り組みます。

【関連する重点プロジェクト】

- CO₂削減目標を設定する
- 森づくりを推進する
- 緑化による環境負荷の低減
- 環境マネジメントシステムの導入

【本年度の取り組みの結果】（一例です）

安曇野環境フェア 2012 での関係団体の出展

安曇野環境市民ネットワーク参加団体を中心に複数の団体が出展し、地球温暖化対策に関する普及啓発をおこないました。



グリーン電力証書



ブース出展

安曇野市版環境家計簿の実施

安曇野市民の意識向上、各家庭における温室効果ガス（CO₂）排出量削減に向けた取り組みの啓発、家庭からの温室効果ガスの排出量の把握などを目的とした「環境家計簿」の取り組みを始めました。

表4 環境家計簿の実施内容

項目	内容
目的	<ul style="list-style-type: none">・市民による家庭からの温室効果ガス（CO₂）排出量の把握。・地球温暖化に対する市民の意識向上。・各家庭における温室効果ガス（CO₂）排出量削減に向けた取り組みの啓発。・地球温暖化に対する市の取り組みの周知。
対象者	<ul style="list-style-type: none">・市内に在住するすべての世帯を対象とし、実施対象世帯（約 100 世帯）を募集する。
募集方法	<ul style="list-style-type: none">・市広報、市ホームページで周知し、募集をおこなう。選出方法は先着順とする。
実施期間	<ul style="list-style-type: none">・平成 25 年 1 月 1 日から平成 25 年 12 月 31 日までとする。
実施項目	<ul style="list-style-type: none">・家庭で使用する電気・LP ガス・灯油・ガソリン・軽油における二酸化炭素（CO₂）排出量とする。
提出方法	<ul style="list-style-type: none">・安曇野市版環境家計簿に記入あるいはエクセルファイルに入力し、それを事務局に郵送、メールまたは持参する。
結果通知	<ul style="list-style-type: none">・事務局は実施対象世帯に対し、二酸化炭素（CO₂）排出量を計算し結果を通知する。
公表等	<ul style="list-style-type: none">・事務局は集計結果等を広報および市ホームページで公表するものとする。
事務局	<ul style="list-style-type: none">・事務局は安曇野市市民環境部環境生活課に置く。

(2) 環境基本計画中間見直し

1) 中間見直しの背景と視点

環境基本計画が策定された平成 19 年度以降において東日本大震災を含め、世界と日本、そして安曇野市を取り巻く情勢や環境に対する価値観は、様々な変化がありました。そこで、推進会議による中間見直しでは、以下の変化を特に視点に取り入れ、環境基本計画を現在の情勢や環境に対する価値観に沿ったものに見直すこととしました。

- 東日本大震災以降の我が国の情勢や環境に対する価値観の変化
震災以降、特にエネルギー需給のあり方を見直す議論が喚起され、安曇野市でもエネルギー分野に対する意識や活動が高まりつつあることに着目。
- 安曇野市の環境に関する取り組みの進捗
安曇野市では、平成 21 年度に安曇野市環境行動計画(以下「行動計画」という。)が策定され、環境基本計画を補強する計画として設定された重点プロジェクトのもと、取り組みの推進が期待されることに着目。
さらに平成 23 年度には、安曇野市地球温暖化対策実行計画(以下「温暖化対策実行計画」という。)が策定され、省エネルギー推進や低炭素・循環型のまちづくりなどの具体的な目標が定められたことを考慮。

2) 中間見直しの手法

計画期間前半の状況報告

a. 『計画の実施に向けた第一歩』に対する成果

環境基本計画では、取り組みを進めていく上で、まず取り組むべき項目が整理されています。それぞれ具体的な目標が定められており、目標に対する具体的な成果をまとめました。

b. 具体的な取り組みに対する成果

平成 19 年度に策定された環境基本計画に引き続き、平成 21 年度には環境行動計画が策定され、これらの計画をもとに、推進会議では様々な取り組みを推進してきました。その取り組みに対する成果をまとめました。

また、環境行動計画に定められた重点プロジェクトについては、毎年、推進会議によって「年次報告書」でその進捗を評価してきました。

中間見直しの方針

推進会議では、中間見直しの視点をもとに、どのような方針で進めるか、協議を重ねました。

そのなかで、「環境基本計画は、安曇野市の環境に関する行動の最も基本的な計画であり、多岐にわたる取り組みが盛り込まれた内容は維持すべき。」という認識で一致しました。

そのうえで、今後、環境基本計画の様々な取り組み内容と、市民がより具体的に動きやすくするための行動計画とをリンクさせながら、安曇野市全体が情勢に即した具体的な行動に結びつけられるよう、項目ごとの重み付けをすることになりました。

【中間見直しの方針】

- 環境基本計画の網羅的な内容を維持
安曇野市で取り組む項目について、多岐にわたって記載された内容を維持。
- 取り組み内容の優先度、重み付けを実施
多岐にわたる取り組みが記載された環境基本計画と、これから重点を置いて活動する取り組みを具体的に記載した行動計画（平成 25 年度に中間見直し予定）を連動させながら、今後、安曇野市全体で具体的な行動につなげられるよう、取り組み項目ごとの重み付けを実施。
- 新たな取り組みの検討
情勢や環境に対する価値観の変化に応じた新たな取り組みの追加を検討。

中間見直しの対象

推進会議では、中間見直しの方針に沿って、環境基本計画における中間見直しの対象となる部分を協議しました。

その結果、環境基本計画で定められた「基本目標」、「個別目標」および「基本施策」については、「中間見直し時点の情勢や環境に対する価値観に鑑みて齟齬はない。」と判断し、変更しないこととしました。

一方、具体的な取り組みについては、「情勢や環境に対する価値観の変化に伴って重要性や緊急性に変化が生じた項目がある。」といった認識で一致しました。

そこで、中間見直しでは、具体的な取り組みとして記載されている項目を対象とすることとしました。

図 1 に、中間見直しの対象範囲を示します。

なお、エネルギーに関する語句の用法について、環境基本計画では「新エネルギー」と表現しています。推進会議とは異なる協議の場で見直しが進められている安曇野市総合計画では、「新エネルギー」を「自然エネルギー」に統一することになりました。

「自然エネルギー」とは、利用し続けても枯渇することがなく、環境への負荷も少ないエネルギー資源であり、風力、太陽光、地中熱、バイオマスなどを指します。

そこで今回の見直しでは、安曇野市総合計画に沿って、具体的な取り組みとして記載されている項目については「新エネルギー」を「自然エネルギー」に統一いたしました。

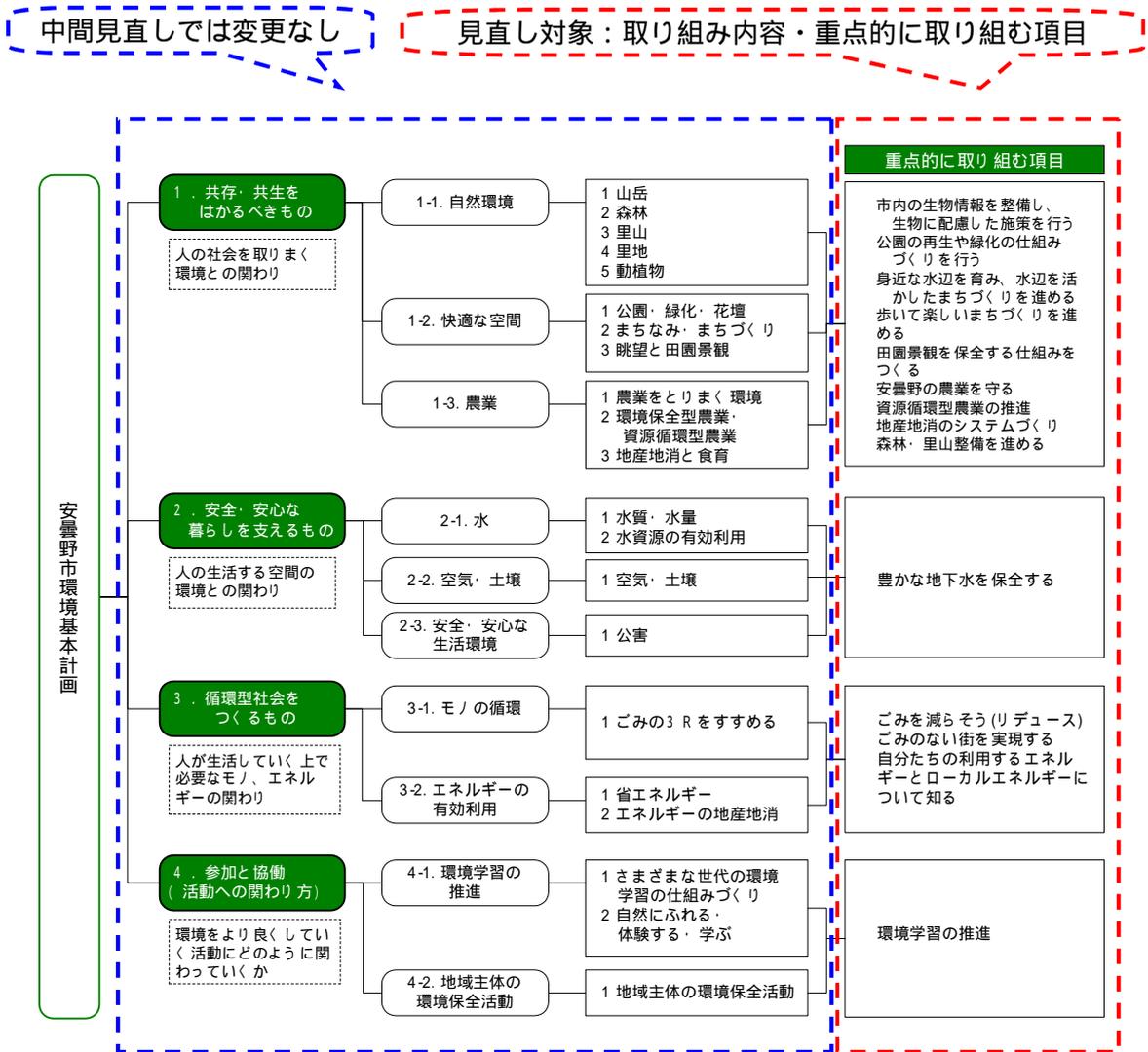


図 1 中間見直しの対象

中間見直しの基準

環境基本計画の具体的な見直し作業においては、見直し作業の中立性、客観性を維持するため、見直し基準を検討しました。

協議の結果、中間見直しの背景と視点、方針をもとにして以下のような見直し基準を設けました。

【中間見直しの基準】

継続で取り組む、あるいは新規に取り組む項目を追加する基準

- 継続で取り組むべき内容であること、ただし情勢の変化等により一部表現の変更を可能とする
- 実現可能な取り組み内容であること
- 緊急性を有すること
- 可能な限り客観的データで評価出来ること
- 一つの取り組みが複合的な効果をもたらすこと

中間見直しで取り組み項目を除外する際の基準

- 既に十分な取り組みが推進されていること
- 情勢や環境に対する価値観の変化により、現状にそぐわないこと

最終結論の決定方法

- 慎重に検討し、推進会議メンバーの総意が得られること

2.2 安曇野環境市民ネットワーク

2.2.1 概要と事業内容

「安曇野環境市民ネットワーク」は、市内全域または各地域において環境保全のための活動をおこなっている各種団体のとりまとめ、および連絡・調整をおこなうことを目的として平成 21 年 9 月に発足しました。

事業内容は、大きく分けて コミュニケーション、 環境学習の企画と実施、 環境基本計画および行動計画の実施、 普及啓発、 の 4 つです。

表 5 安曇野環境市民ネットワークの事業内容

区 分	内 容
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none">・ ネットワーク参加団体および個人に関する情報の提供と公開・ 参加者同士のコミュニケーション・ 交流会等の企画
環境学習の企画と実施	<ul style="list-style-type: none">・ 環境学習プログラムの企画と実施・ 環境学習におけるリーダー等、地域に貢献できる人材の育成・ ネットワークのつながりを活用した環境学習の企画と実施
環境基本計画および行動計画の実施	<ul style="list-style-type: none">・ 環境基本計画、環境行動計画の推進への協力・ 環境保全上の課題への対応
普及啓発	<ul style="list-style-type: none">・ インターネット上での情報公開・ 活動拠点における情報提供・ 各種環境イベントの企画と運営、参加と協力

2.2.2 平成 24 年度の経過

平成 24 年度は、総会を 1 回、運営委員会を 3 回開催しました。

本年度からは、安曇野環境フェアの実行委員会はネットワークを中心に組織され、環境フェアの開催・運営をおこないました。

また平成 25 年 3 月には、ネットワーク加盟団体の交流をより深めることを目的とした『安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム 2013』を開催しました。

表 6 安曇野環境市民ネットワークの経過

日 時	会議名称	内 容
平成 24 年 5 月 17 日	第 1 回 運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> 平成 23 年度事業報告および収支決算 役員改選 平成 24 年度事業計画および収支予算
5 月 31 日	総 会	<ul style="list-style-type: none"> 平成 23 年度事業報告および収支決算 役員改選 平成 24 年度事業計画および収支予算
12 月 27 日	第 2 回 運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> 「安曇野環境フェア 2012」開催報告 安曇野市環境基本計画中間見直し（経過報告） 「安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム 2013」の開催について 今後の進め方（ビジョンづくり）について
平成 25 年 3 月 5 日	第 3 回 運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> 「安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム 2013」の開催について ネットワーク参加団体・環境学習プログラム紹介冊子の改訂について
3 月 30 日	フォーラム 2013	<ul style="list-style-type: none"> 出前講座「地下水保全の取り組みについて」 出前講座「環境基本計画中間見直しについて」 ワールドカフェ「安曇野の環境について語ろう！～環境基本計画・行動計画、何ができるのか？～」

これらの会議等の他に、参加団体間の情報交換および情報発信として、メーリングリスト上での情報交換、ウェブページ「あづみ野エコプラン.net」上でのネットワークの紹介などをおこないました。



フォーラム 2013



フォーラム 2013

2.3 環境基本計画庁内調整会議

庁内の担当課を明確化した上で、関連する施策の連携を強化し、環境に関する施策・事業を効果的に推進するため、庁内の連絡調整をおこなうことおよび庁内地球温暖化防止実行計画等の策定・推進・評価等をおこなうことを目的として設置しました。

平成 24 年度は、環境基本計画の中間見直しの報告などをおこないました。

表 7 環境基本計画庁内調整会議の経過

日付	会議名称	内容
平成 24 年 4 月 25 日	第 1 回庁内会議	環境行動計画「平成 23 年度年次報告書」について 庁内地球温暖化防止実行計画および「改正省エネ法」 の取り組みについて
10 月 24 日	第 2 回庁内会議	平成 24 年度環境行動計画について 庁内地球温暖化防止実行計画取り組み状況について
平成 25 年 3 月 1 日	第 3 回庁内会議	安曇野市環境基本計画中間見直し（案）報告について

2.4 環境審議会

安曇野市環境基本条例に基づき設置されるもので、環境基本計画に関することや環境保全に関する基本的事項を調査審議するための、学識経験者中心の諮問機関です。

環境問題に対し、市長の諮問に応じ答申することのほか、環境基本計画の進捗状況を管理する「環境基本計画年次報告」の承認等をおこなっています。

平成 24 年度は 5 回開催され、環境基本計画の中間見直しおよび安曇野市地下水の保全及び活用に関する条例などについて検討しました。

表 8 環境審議会の経過

日付	会議名称	内容
平成 24 年 4 月 26 日	第 1 回 環境審議会	環境基本計画 平成 23 年度 年次報告書について
6 月 28 日	第 2 回 環境審議会	地球温暖化対策実行計画（案）について
11 月 13 日	第 3 回 環境審議会	安曇野市地下水の保全・涵養及び適正利用に関する 条例（仮称）原案及び施行規則（原案）について
12 月 21 日	第 4 回 環境審議会	安曇野市環境基本計画中間見直し（案）について
平成 25 年 2 月 18 日	第 5 回 環境審議会	安曇野市地下水の保全・涵養及び適正利用に関する 条例（仮称）素案に対するパブリックコメント結果 報告

2.5 安曇野環境フェア 2012

2.5.1 開催のねらい

5 回目を迎える今年は、「安曇野環境市民ネットワーク」が主体となって、環境活動をおこなっている団体や個人がお互いを知り、さらに来場される皆さんも交えて、つながりの環を広げることを目指し、フェアを開催しました。

今回の開催の目的は、以下の 3 点でした。

環境に関して取り組んでいる団体や個人だけでなく、来場される皆さんも交えてお互いを知り合い、つながりの環を広げていく場を提供する。

環境に関する市全体のテーマを知らせる。

- ・年次テーマ：「安曇野の水を知り、守り、育む」
- ・長期テーマ：「地球温暖化対策にみんなで取り組む」

テーマに沿った具体的な取り組みを知らせる。

- ・「地下水資源強化・活用指針」と今後の取り組みについて
- ・「地球温暖化対策実行計画」の取り組みについて

2.5.2 開催概要

【テーマ】水と緑に恵まれた安曇野の暮らしを守り育もう
～つながりの環を広げよう～

【主催】安曇野市、安曇野環境フェア 2012 実行委員会

【日時】平成 24 年 10 月 6 日（土） 10:00～16:00
7 日（日） 9:00～16:00

【会場】安曇野市堀金総合体育館

【開催内容】

ブース展示（10 月 6 日～7 日）

- ・安曇野市、企業、団体、学校、個人等による展示：計 70 団体・個人

環境活動発表会

- ・小・中学生の部：3 団体（10 月 6 日）
- ・学生・一般の部：7 団体（10 月 7 日）

白井則孔コンサート（10 月 6 日）

- ・手回しオルゴールと歌のコンサート

人形劇（10 月 6 日～7 日）

- ・ホーボースパペットシアター

【同時開催】

10月6日(土)

わらしべ長者(主催:安曇野案内人倶楽部)
・物々交換のフリーマーケット

エコグッズコンテスト表彰式(主催:長野県環境保全協会)

映画『シェーナウの想い』上映&トーク(主催:自然エネルギーネットまつもと)

屋敷林の説明と周辺散策(主催:屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト)

10月7日(日)

「三角島」スケッチ大会表彰式(主催:三角島ふるさとの森プロジェクト)

特別講演会(主催:安曇野市消費者の会)

・『食と農 ~「信頼で結ぶ食の安心・安全」』講師:見城美枝子氏

【来場者数】

10月6日(土)約700名

7日(日)約600名

2日間の合計 約1,300名

2.5.3 準備スケジュール

準備スケジュールは以下のとおりであった。

- | | |
|-----------|--------------------------|
| 7月4日(水) | ・第1回実行委員会 |
| 7月25日(水) | ・広報発行、出展団体申込受付開始 |
| 7月26日(木) | ・第2回実行委員会 |
| 8月17日(金) | ・出展団体申込締切 |
| 8月20日(月) | ・ポスター、チラシ原稿入稿 |
| 8月26日(日) | ・信州環境フェア視察 |
| 8月28日(火) | ・第3回実行委員会 |
| 8月28日(火) | ・参加者連絡会 |
| 9月10日(月) | ・広報折込(9/26発行、出展団体一覧)原稿入稿 |
| 9月19日(水) | ・第4回実行委員会 |
| 9月26日(水) | ・広報発行、出展団体一覧折込 |
| 10月1日(月) | ・フェア当日配布プログラム原稿入稿 |
| 10月4日(木) | ・パネル設置位置マーキング |
| 10月5日(金) | ・会場準備 |
| 10月6日(土) | ・当日準備、本番1日目 |
| 10月7日(日) | ・本番2日目、閉会后撤収 |
| 10月23日(火) | ・振り返り・懇親会 |

2.5.4 印刷物等の資料作成

フェア告知用資料、当日配布資料として以下の印刷物を作成した。

- ・告知用ポスター
- ・告知用チラシ
- ・小学校向け告知用チラシ
- ・広報原稿
- ・当日配布用プログラム
- ・アンケート（来場者、出展者、環境活動発表会発表者、スタッフ）
- ・出展者名看板
- ・誘導看板
- ・受付等看板

2.5.5 助成などについて

（社）長野県環境保全協会中信支部様より、運営資金の一部を助成いただいた。

会場で使用する電力の一部は、ネクストエナジー・アンド・リソース（株）から提供されたグリーン電力を使用した。

3 行動計画実施結果

3.1 行動計画について

「安曇野市環境行動計画」（以下「行動計画」という。）は、安曇野市のよりよい環境づくりを目的として平成 20 年 3 月に策定した「安曇野市環境基本計画」（以下「基本計画」という。）の実現に向け、基本計画に盛り込まれた取り組みのうち、特に重点的・優先的におこなう必要のある項目をまとめたものです。

基本計画は、平成 20 年度を始期として平成 29 年度を目標年度としています。行動計画は、このうちの前半にあたる平成 25 年度までに実現する項目を取り上げています。

そして、計画に従って取り組みを進めることを前提に、主体ごと、時期ごとにおこなうべき項目を可能な限り具体的に取り上げています。

3.2 重点プロジェクトの一覧

行動計画では、特に重点的・優先的におこなう必要のある項目を「重点プロジェクト」としてまとめました。重点プロジェクトは、以下の 11 項目です（実施計画の立案段階で重点プロジェクトのうち「市民参加による公園再生の仕組みづくり」と「水景観と歴史・文化遺産を活かしたまちづくり」が合体して「歩いて楽しいまちづくり」となったため、行動計画に記載された重点プロジェクトの数から 1 つ減っています）。

表 9 重点プロジェクトと平成 24 年度の実施内容一覧（1/3）

重点プロジェクト名	平成 24 年度の実施内容	
	主体	内容
CO ₂ 削減目標を設定する	<ul style="list-style-type: none"> 策定した実行計画を広報していくとともに、実効性を持たせていく。 市民、事業者の皆さんの取り組みについて把握し、広く紹介していく仕組みづくりに取り組んでいく。 	
	行政	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な行動計画の策定
	市民・事業者	<ul style="list-style-type: none"> 策定への協力
生物多様性を維持する	<ul style="list-style-type: none"> 実態の把握に伴い計画の遂行に向けた対象・予算等の見直しが必要。 専門家の調査から次第に市民を巻き込んだ計画を展開。 	
	行政	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生き物調査（または類似の調査）を実施し、過年度と比較・評価をおこなう。 対策の実施・検証 次年度の対策 被害軽減と根絶の検討
	市民・事業者	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生き物調査（H19 年度のモニタリング） 生物情報とりまとめ レッドデータブック作成
森づくりを推進する	<ul style="list-style-type: none"> 森林（里山）の現状を正しく把握し、円滑な森林整備や森林資源の有効活用など、実効的な計画とするための基本方針や取り組み内容を検討する必要がある。また、検討の過程を市民に公開し、広く意見を募る必要がある。 	
	行政	<ul style="list-style-type: none"> 森づくり基本方針（森づくり構想、森づくり条例、森づくり基本計画）の策定 基本方針に基づき、実行計画を策定する。
	市民・事業者	<ul style="list-style-type: none">

表 9 重点プロジェクトと平成 24 年度の実施内容一覧 (2 / 3)

重点 プロジェクト名	平成 24 年度の実施内容	
	主体	内 容
緑化による環 境負荷の低減		<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑のカーテンは、震災後の社会変化に伴う省エネ志向、CO₂ 削減への関心が集まり、一般市民が取り組む機運が高まったことを受けて、苗の植え方や水やりといった生育に必要な情報を適時に流すことをおこなう。 ・ 学校校庭の芝生化は維持管理(費用面含む)および利用側の評価等を取りまとめた資料(三郷小、保育園、穂高西小等のデータから)を作成し今後の推進について検討する。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑のカーテンのマニュアルを使った、市民向け講習会を公民館講座等で実施する。 ・ 環境負荷低減の効果のある緑化策を市民事業者を紹介するガイドブック等を作成し、配布する。 ・ 緑のカーテンの対象を拡大して実施。 ・ 広報等での紹介 ・ 効果の測定 ・ とりまとめとマニュアル化
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校校庭について市内全小中学校を対象とするが、実施前に希望を募る。 ・ 小中学校校庭の芝生化について、実施する学校を確定させる。
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑のカーテン以外の方法を検討(効果の測定方法も検討する)。 ・ 生け垣、屋敷林、その他環境負荷低減に効果があるものを見直す(補助制度、苗木の配布等の検討)。
歩いて楽しい まちづくり		<ul style="list-style-type: none"> ・ 整備モデル地区(豊科ビレッジから万水川周辺 三角島まで)において、すぐにできる事業から実施をし、その中で、横の連携をとりながら、組織基盤を構築していく。 ・ プロジェクトにおいて策定された内容を、他の部署で今後策定される諸計画、事業等の中でどのように反映し位置付けていくか。
	市民・事業者・行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウォーキングイベントを開催する。 ・ 公園再生の体制をつくり、具体的な計画を立案する。
耕作放棄地を 減らして安曇 野の風景を守 る		<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規就農者支援事業は、今後も続けていき、新たな担い手ができることを期待する。 ・ 更なる耕作放棄地対策の充実が望まれる。 ・ Uターン、Jターン者への支援も必要だが、Uターンした人への支援も検討が必要になってくる。 ・ 兼業農家や退職組の就農者等への支援対策の充実が必要。
	行政・JA・農業委員会・営農支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 営農支援センターを中心に、新規就農者の育成支援制度の適用を開始する(毎年3名を目標)。 ・ 耕作放棄地利活用の仕組みを開始 農地に関する情報提供 耕作放棄地で活動する団体の紹介 など

表 9 重点プロジェクトと平成 24 年度の実施内容一覧 (3 / 3)

重点 プロジェクト名	平成 24 年度の実施内容	
	主体	内 容
地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる		<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業体験セミナーへの参加人数の増加を、関係団体と連携を取りながら図っていくことが必要となる。 ・ 地元農産物使用割合について、算出方法について試行中であるが、把握方法についてさらに検討が必要。 ・ 地元産は、コメとリンゴが主なものである。今後は 3 番目の品種を開発していく必要がある。
	行政・JA・農業委員会等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元産農産物の消費拡大に向けた取り組みを引き続き実施する。 ・ 農業体験セミナーを引き続き実施する。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校給食における地域食材の使用率を向上させる。
豊かな地下水を保全する		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地下水保全条例（仮称）を制定する。 ・ 条例を制定するにあたり、地下水のかん養、それを進めていくための制度等について、実効性のあるものにしなければならない。
	行政（市民・事業者）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地下水保全条例を制定する。
ごみを減らそう		<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般廃棄物処理基本計画が策定されたため、計画の実行について、より一層の検討が必要だと思われる。 ・ ごみとされているもの全般について 3 R、5 R を進め、全体量を減らしていく必要があると思われる。 ・ 事業系生ごみ処理の対策を検討する組織については、まず市有施設での研究を進め、その結果をもって、次年度以降に設置する。
	行政・事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業系生ごみ処理（検討された対策）実施。
	市民・行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭系生ごみ処理（検討された対策）実施。
環境について教え学び、取り組む仕組みづくり		<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者側の意向に沿った環境学習プログラムの提示と活用の促進。 ・ 環境学習プログラム提供側の質の向上を目指すための施策の検討。
	行政・教育委員会等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野環境インストラクター制度を検討する。 ・ 環境フェアの開催
環境マネジメントシステムの導入		<ul style="list-style-type: none"> ・ システム検討については、平成 24 年度に庁内 P J を立ち上げ検討を進めるとともに、専門家やコンサルにアドバイスを求める。 ・ 事務局は当面、生活環境課で行い、基礎的な方向が決まった時点で担当課へ移行する。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野版 EMS の検討を開始する。

3.3 各重点プロジェクトの結果

以下、重点プロジェクトごとに平成24年度の取り組みの結果を示します。

【重点プロジェクト表の見方】

環境行動計画で立てた基本事項です。

本年度当初に立てた計画とその結果です。結果はランクとして記号で示します。

ランク
 達成度別に A～E の 5 段階で評価しました。記号は達成度のめやすを示します。
 A: 目標達成
 B: 75% 程度達成
 C: 50% 程度達成
 D: 25% 程度達成
 E: ほぼ未着手
 -: 判定不能
 割合の数字はおおよそのめやすです。

本年度の総括と次年度に向けた留意事項等の整理結果です。実績評価はランクとして記号で示します。

(1) CO₂削減目標を設定する 担当：地球温暖化対策 WG 各座長+希望者 (事務局：深澤)

■このプロジェクトの基本事項

目的	・ ① CO ₂ の排出量を削減する	
方向性	・ CO ₂ 排出量の実態把握 ・ 削減目標を実現するための具体的な行動計画の策定と実施	
目標	時期	内容
	平成24年度末	・ 具体的な行動計画を検討し、取り組める行動から実施する。 ・ 市民、事業者への広報活動を実施する。

■平成24年度の計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政	<ul style="list-style-type: none"> ●情報の提供と普及啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市広報、ウェブページなどからの情報提供 ・ 安曇野環境フェア、安曇野環境市民ネットワークフォーラムなどのイベントや公民館講座での普及啓発 ●エネルギー消費量による評価の仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民モニター制度（仮称）の実施環境家計簿（仮称）による各家庭のエネルギー消費量の把握 ・ 事業者のエネルギー消費量の把握 ・ エネルギーの消費量のデータ提供の依頼 	通年 通年 平成25年1月より実施 平成25年3月までに実施方法について検討	広報 A: 太陽光等補助金 4/25 A: 緑のカーテン啓発 6/20 A: 自然エネルギー啓発 10/24 A: 地球温暖化対策要綱 6/6 A: 環境フェア (10/6・7) A: 公民館講座 延日数 24 日間の実施 A: 明科文化祭/パネル展示 9/16 B: 環境家計簿モニター募集 (H25.1) 67名受付 実施期間 H25.1～12 検討中
	市民・事業者・行政	<ul style="list-style-type: none"> ●CO₂排出量削減のための行動の検討と実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ ワーキンググループを中心に具体的な行動計画の検討 ・ すぐに取り組める行動から実施 ●新エネルギー導入促進に向けての方向性の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然エネルギーネットまつもと等との連携 	

■実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	ランク*: A ・ 概ね計画は達成できている。行動計画については「重点実施事項」を選定し、太陽光発電システム設置補助金交付事業、太陽熱高度利用システム設置補助金交付事業、住宅用雨水貯留施設設置補助金交付事業、「緑のカーテン」の実施等がなされた。
次年度への展望と課題	CO ₂ 排出削減のために重点実施項目を元に具体的な数値目標を定め、年度中途の経過報告結果を踏まえつつ、関係者が一体となって協力に進める必要がある。

(1) CO₂削減目標を設定する 担当：地球温暖化対策 WG 各座長 + 希望者（事務局：深澤）

このプロジェクトの基本事項

目的	・ CO ₂ の排出量を削減する	
方向性	・ CO ₂ 排出量の実態把握 ・ 削減目標を実現するための具体的な行動計画の策定と実施	
目標	時期	内容
	平成 24 年度末	・ 具体的な行動計画を検討し、取り組める行動から実施する。 ・ 市民、事業者への広報活動を実施する。

平成 24 年度の計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政	<p>情報の提供と普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報、ウェブページなどからの情報提供 ・安曇野環境フェア、安曇野環境市民ネットワークフォーラムなどのイベントや公民館講座での普及啓発 <p>エネルギー消費量による評価の仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民モニター制度（仮称）の実施環境家計簿（仮称）による各家庭のエネルギー消費量の把握 ・事業者のエネルギー消費量の把握 エネルギーの消費量のデータ提供の依頼 	<p>通年</p> <p>通年</p> <p>平成 25 年 1 月より実施</p> <p>平成 25 年 3 月までに実施方法について検討</p>	<p>広報</p> <p>A:太陽光等補助金 4/25 A:緑のカーテン啓発 6/20 A:自然エネルギー啓発 10/24 A:地球温暖化対策概要版配布 6/6 A:環境フェア（10/6・7） A:公民館講座 延日数 24 日間の実施 A:明科文化祭パネル展示 9/16</p> <p>B:環境家計簿モニター募集（H25.1）67 名受付 実施期間 H25.1～12 検討中</p>
市民・事業者・行政	<p>CO₂ 排出量削減のための行動の検討と実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワーキンググループを中心に具体的な行動計画の検討 ・すぐに取り組める行動から実施 <p>新エネルギー導入促進に向けての方向性の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然エネルギーネットまつもと等との連携 	<p>～平成 25 年 3 月</p> <p>通年</p>	<p>A:重点実施項目選定（9 項目） 太陽光発電システム（申請件数 355 件） 太陽熱高度利用システム（申請件数 12 件） 雨水貯留施設（申請件数 27 件） 緑のカーテン実施（市内 24 箇所）</p> <p>A:関係会議等参加 運営会議（市内）5/18 通常総会（市内）6/23 運営会議（市内）7/11 市民フォーラム（塩尻市）2/3 市民フォーラム（市内）2/17</p>

実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	<p>ランク : A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概ね計画は達成できている。行動計画については「重点実施事項」を選定し、太陽光発電システム設置補助金交付事業、太陽熱高度利用システム設置補助金交付事業、住宅用雨水貯留施設設置補助金交付事業、「緑のカーテン」の実施等がなされた。
次年度への展望と課題	<p>CO₂ 排出削減のために重点実施項目を元に具体的な数値目標を定め、年度中途の経過報告結果を踏まえつつ、関係者が一体となって協力に進める必要がある。</p>

(2) 生物多様性を維持する 担当：自然・環境教育 WG（事務局：飯田）

このプロジェクトの基本事項

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然と共生する社会の構築 ・ 生物情報の整備と生物に配慮した施策の実施 	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野市の生物情報を整備し、環境計画や都市整備等の施策に反映することを目指す ・ 外来種対策の具体的な方向性を示す 	
目標	時期	内容
	平成 24 年度末	・ 身近な生き物調査（または類似の調査）を実施し、過年度と比較・評価を行う。
	平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野市生物情報報告書と安曇野市版レッドデータブックを刊行する。 ・ 外来種対策の効果を測定する（対策実施前との比較）。

平成 24 年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政 （生活環境課）	安曇野市版レッドデータブック （以下 RDB）の作成 作成委員会の開催 （回数については、前年より通番） ・ 第 4 回 ・ 第 5 回 ・ 第 6 回 ・ 第 7 回 作成部会の開催 ・ 第 1 回 ・ 第 2 回 ・ 第 3 回	5 月 14 日 10 月 26 日 12 月 17 日 平成 25 年 3 月 15 日 7 月 6 日 8 月 27 日 平成 25 年 1 月 28 日	A：スケジュール確認 内容検討 A：レッドリスト等検討 A：レッドリスト等検討 A：レッドリスト等検討 A：レッドリスト等検討 A：レッドリスト等検討 A：レッドリスト等検討
市民・事業者・行政	生きもの調査 ・ 生きもの調査の実施 ・ 広報、支所窓口での調査用紙の配布 ・ 第 1 回説明会 明科：自然交流センターせせらぎ周辺 ・ 第 2 回説明会 三郷：黒沢洞合自然公園 堀金：烏川溪谷緑地 水辺エリア ・ 調査結果の公表 外来種対策 ・ 広報などでの啓発 ・ 豊科、穂高、三郷、明科の各区による アレチウリー斉駆除作業 ・ 市民団体などによるアレチウリ、オオ カワヂシャ、オオキンケイギクなどの 外来植物の駆除作業	4 月～10 月 4 月 4 日～ 5 月 19 日 7 月 29 日 平成 23 年 1 月 31 日～ 通年 6 月～10 月 6 月～9 月	A：実施 A：実施 A：24 人参加 A：61 人参加 A：あづみ野IOPラウンジ.net で 公開開始 A：第 146（6 月 20 日） 号に掲載 A：54 地区、延べ 4,137 人参加 A：7 回、延べ 146 人参加

実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	ランク：A <ul style="list-style-type: none"> ・ 概ね計画通りに実施している。 ・ 外来種対策については、その動きをより広げていきたい。
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野市生物情報報告書と安曇野市版 RDB の活用方法について、検討する。 ・ 外来種対策について、駆除の効果を測定し、今後の方向性を検討する。

(3) 森づくりを推進する 担当：自然・環境教育 WG (事務局：飯田)

このプロジェクトの基本事項

目的	・ 森林の持つ公益的機能 (CO ₂ 排出抑制、水源涵養や山地災害防止など) の発揮や自然とのふれあいを重視した森林・里山の整備・保全を目指す	
方向性	・ 安曇野市の森づくりの方向性を打ち出す ・ 森づくり基本方針 (森づくり構想、森づくり条例、森づくり基本計画) の策定 ・ 安曇野市森林整備計画 (平成 18 年～平成 28 年) の推進	
目標	時期	内容
	平成 24 年度	・ 森づくり基本方針 (森づくり構想、森づくり条例、森づくり基本計画) を策定する。

平成 24 年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政 (耕地林務課)	里山再生計画の策定 策定委員会の開催 (回数については、前年より通番) ・ 第 2 回 ・ 市民、山林所有者アンケートの実施 (市民 1,500 名・所有者 100 名) ・ 市内現地視察 ・ 第 3 回 ・ 第 4 回 ・ 先進地視察研修 根羽村森林組合 (林業の状況) 愛知県豊田市 (森林づくり条例) (株)DLD (薪の宅配) 上伊那森林組合 (ペレットの製造) ・ 第 5 回 ・ 第 6 回 森づくり基本方針の検証	5 月 29 日 7 月 23 日 ~ 8 月 17 日 8 月 10 日 9 月 11 日 11 月 19 日 12 月 12 日 ~ 13 日 平成 25 年 1 月 30 日 3 月 19 日	A : 今後の計画策定 課題と問題点の確認 A : 回収率 市民 : 39.1% 所有者 : 48.0% A : 市内の里山現状把握 A : 現状視察とアンケート結果 A : 計画のめざす姿を検討 A : 視察研修を行った A : 今後の計画策定 平成 25 年度の進め方 : 行動計画の検討 E : 基本方針の策定までには、 至らなかった
市民・事業者・ 行政	森林 (もり) の里親促進事業の展開 ・ 継続 富士電機グループふるさとの森林事業 ・ 新規 abn、森倶楽部 21 JA 全農長野、マイパール長野 みどりの少年団活動 ・ 緑化や環境教育の推進 学有林活動 ・ 下刈、除伐、間伐等の実施 森林税を活用した地域協議会 ・ 森林整備の集約化および森林整備	5 月～10 月 4 月～10 月 通年 6 月～9 月 通年	A : 計 4 回、述べ 235 人参加 A : 計 3 回、述べ 150 人参加 計 1 回、契約締結 A : 市内 3 校で実施 A : 市内 5 校で実施 A : 三郷 (北小倉)、明科 (中 村、吐中、松庄) で実施。 延べ 124 ヘクタール

実績の評価と次年度への課題等

本年度の 実績評価	ランク : B ・ 計画の「めざす姿」について概ね方向性が示された。今後は、現場の状況を踏まえながら、基本方針の作成を進めていかなければいけない。 ・ 森林 (もり) の里親促進事業については新規に 2 契約を締結できた。また、市民による森林、里山整備活動が進んでいる。
次年度への 展望と課題	・ 里山の「めざす姿」を実現するため、次年度からは実際に現地での行動も取り入れ、現実に動き、また、森林の持つ公益的機能を考えた計画となるための検討を始める。

(4) 緑化による環境負荷の低減 担当：景観・まちづくりWG (事務局：深澤)

このプロジェクトの基本事項

目的	・身近な緑化を通じて、快適環境の整備だけでなく、地球温暖化防止、CO ₂ 削減などの環境負荷低減を行う。	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にあった緑化策（緑のカーテン、生け垣、屋敷林など）の検討と普及 ・公共施設への省エネルギーと環境負荷低減効果のある緑化策の採用 ・学校校庭の芝生化推進（試行と検証、改善等を経て、市内の小中学校校庭の芝生化を順次進める） 	
目標	時期	内容
	平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> ・緑のカーテンのマニュアルを使った、市民向け講習会を公民館講座等で実施する。 ・環境負荷低減の効果のある緑化策を市民事業者を紹介するガイドブック等を作成し、配布する。 ・小中学校校庭の芝生化について、実施する学校を確定させる。

平成24年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政（生活環境課）・市民・事業者	公共施設等における緑のカーテン実施	4月～5月	A：21施設24か所で実施（昨年14施設17か所） B：H25.1アンケート実施 B：オーシャンブルーの差し芽の配布および冬越しマニュアルの配布を行った。
	・設置箇所の拡大をはかる	4月～12月	
	・来年度実施に向け、各施設における課題等を抽出し、まとめ、改善点等を明らかにする 来年度へ向け、オーシャンブルー等緑のカーテンの普及を図る ・市民向け、オーシャンブルーの差し芽、冬越し講座の開催（NPOと共催） ・緑のカーテンマニュアルの配布	11月	
行政（教育委員会）	学校校庭の芝生化 ・学校校庭の芝生化は維持管理（費用面含む）および利用側の評価等を取りまとめた資料（三郷小、保育園、穂高西小等のデータから）を作成し今後の推進について検討する。		B：穂高西小学校の維持管理状況および、利用側の意見をとりまとめたが、今後の方針についての結論には至らず。

実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	ランク：B ・緑のカーテンについては昨年に比べ実施場所も増えたこともあり評価できるのではないかと。 ・学校校庭芝生化については推進に伴う管理負担との調整、検討が十分にはなされなかった。
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化策の多角的で広範囲にわたる施策の実施が望まれる。 ・学校校庭の芝生化についてはメリット、デメリットの洗い出しと今後の施策の検討が必要である。

(5) 歩いて楽しいまちづくり 担当：景観・まちづくりWG（事務局：深澤）

このプロジェクトの基本事項

目的	<ul style="list-style-type: none"> 地域の住民が水景観や歴史文化遺産等の魅力を再発見し、その魅力をさらに高めることにより地域の活性化を図る（観光が主目的としてのスタートではなく、地域の活性化を図り、最終的に観光資源へ発展するように）。 活用されていない公園を、地域住民がふれあい、地域の活力を高める場として再生する。 	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> 自動車を使わず歩いて回れるまちづくりの推進 水景観や歴史・文化遺産などの保全と活用 上記の地域資源を結びつける遊歩道、自転車道のネットワーク化 地域住民が参加する公園再生の仕組みづくり（公園の再生計画、施工、管理など可能な範囲で地域住民が参加し、地域住民のニーズが反映された公園再生を行政とともに協働で進める） 	
目標	時期	内容
	H24 年度末	「歩いて楽しいまちづくりプロジェクト研究会」の実践計画策定
	H25 年度	

平成 24 年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政 ・市民・事業者	歩いて楽しいまちづくりプロジェクト研究会の展開 ・整備モデル地区内での各種団体の取り組み把握（講座、体験等の実施、美化活動等）	4月13日	A：素案説明
		5月16日	A：具体案検討 環境テーマ 具体的に取り組む5本柱
	・整備モデル地区（豊科ビレッジから万水川周辺三角島まで）において、すぐにできる事業から実施をし、その中で、横の連携をとりながら、組織基盤を構築していく。	6月14日	A：現地調査（重柳地区） A：地域での催事および庁内各担当からの情報共有
		5月～3月	A：翌年度に検討とする
	・他のモデル地区での整備検討の開始 ・事業実施を通して、課題の抽出、今後の展開についての検討をする。	11月12日	A：10月までの取り組みの実績確認
		11月27日	A：課題対応策の検討
		12月4日	B：重柳区長と協議
	・各行政部署における諸計画・事業等の中で、来年度以降、どのように反映し位置付けていくかの検討をする。	12月19日	A：新年度展開の方向
		平成25年	
		1月10日	A：基本計画案の検討
1月29日		A：基本計画案の検討	
		2月19日	A：基本計画案・次年度活動の検討

実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	<p>ランク：A</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画に沿った事業実施がなされた。実施にともない課題が見つかった。 課題 地域住民との協働については、各地域ごとにそれぞれの対応が必要であり、一律に進めることは困難である。 課題 目標実現に向けて現実的な進め方も大事であるが、楽しいまちづくりには夢（理想）も大事である。
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> 歩いて楽しいまちづくりプロジェクト（基本計画）実施対象地域の選定および実施に伴う準備が必要である。 公園の再生についても歩いて楽しいまちづくりプロジェクトの中に組み込んだ対策が必要である。

(6) 耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る 担当：農業 WG (事務局：大向・深澤)

このプロジェクトの基本事項

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野の特徴的な環境である田園風景を守る ・ 安曇野の農業従事者が魅力を高め、農業従事者や地域が意欲的に農業を続けていくことのできるような環境整備を進める ・ 農業従事者がいないために農地が荒廃し、耕作放棄地となるのを防ぐ 	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農地情報の一元管理と利用希望者への提供 ・ 意欲のある農業従事者への農地利用を促進と新規就農者の受入れ推進 ・ 耕作放棄地解消のための耕作放棄地での耕作などの活動に市民が参加 	
目標	時期	内容
	平成 22 年度～ (継続実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市農業再生協議会を中心に、新規就農者の育成支援制度の適用を開始する(毎年 3 名を目標)。
	平成 25 年度末	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 22 年度から開始した育成支援の結果、新規就農者が自立する。 ・ 耕作放棄地を減らす。

平成 24 年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政(農政課) ・ J A ・ 農業委員会 ・ 市農業再生協議会	青年就農給付金事業(国庫事業)の活用並びに新規就農者生活支援金支給事業(市農業再生協議会事業)の推進(目標:10名) ・ 対象者の公募、申込受付～決定～補助金交付 ・ 対象者への農地情報提供、営農指導等 ・ 対象者からの実績報告	4月～ 通年 平成 25 年 3月	A:国庫事業で10名、市農業再生協議会事業で4名が対象となり、目標達成できた。 国の事業に対象とならない方を市再生協で補完する形で支援した。 農地情報の提供や営農指導が実施され、営農の現況および実績の報告も受けた。
行政(農政課、耕地林務課) ・ J A・農業委員会・市農業再生協議会	耕作放棄地対策 ・ 現地調査(実施～集計～まとめ～有効活用) ・ 耕作放棄地対策相談窓口の充実 ・ 耕作放棄地解消補助事業等促進(草刈り機・トラクター貸出事業) 農地・水保全管理支払交付金 ・ 対象集落数の拡大 ・ 共同による農地・農業用水・農村環境の保全活動 ・ 農業用施設の長寿命化の取り組み	通年 通年 通年	A:特に市再生協事業により耕作放棄地の発生を未然に防ぐことができた。 さらに、国の補助事業を活用して耕作放棄地の再生利用が進んだ。 14組織(H23) 32組織(H24) (内訳) ・ 共同活動取組組織 14組織(H23) 31組織(H24) ・ 向上活動取組組織 5組織(H23) 28組織(H24) (組織重複有)
市民・事業者	市民・事業者による1品作付け事業 ・ 農業体験講座参加者等にこれらの苗(冬野菜ブチペール、落花生等)を贈呈し、農業に対する意識の高揚を図る	通年	B:一部で積極的に取り組んでいるが他の講座への拡大が必要

実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	ランク : B ・ 新規就農者支援事業、耕作放棄地対策、農地・水保全管理支払交付金事業とも行政や J A の努力により A 評価できるが、耕作放棄地解消という全体的な観点からすると B 評価になってしまう。 ・ 水田はまだ問題が少ないが、畑作地帯での貸し借りによる解消は難しい状況である。 ・ 行政や J A の努力だけでは、難しい部分がある。農地も個人財産であるので、貸し借りの条件等も難しくなっている。 (参考:耕作放棄地面積 H23調査 53.7ha H22調査 54.7ha)
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規就農者支援事業は、今後も続けていき、新たな担い手ができること期待する。 ・ Iターン、Jターン者への支援も必要だが、Uターンした人への支援も検討が必要になってくる。 ・ 兼業農家や退職組の就農者等への支援対策の充実が必要。

(7) 地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる 担当：農業 WG (事務局：大向・深澤)

このプロジェクトの基本事項

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野の農業を活性化する ・農業者や地域が意欲的に農業を続けていくことができるようにする 	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・より適正な価格で販売することを視野に入れ、地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる ・「農業体験講座」等の拡充 ・農薬、除草剤、化学肥料の使用を削減とこれらに頼らない農業の実践 	
目標	時期	内容
	平成 25 年度末	・安曇野産農産物の使用率を把握し、地産地消の拡大を確認する。

平成 24 年度の実施計画および結果

実施計画			結果			
主体	内容	時期				
行政 (農政課) ・JA ・農業委員会等 ・市農業再生協議会	地元農産物消費拡大 ・「農業体験講座」等を増やし、播種から収穫までの一連の作業や作物の加工体験を行い、農業に対する理解と交流の促進に取り組む	通年	B：農業塾や体験農場の増加はなかったが、講座等は、引き続き非農家が利用しやすい内容だった。			
[今年度の実施した主な講座等は下記のとおり]						
実施主体	事業名	場 所	実施期間	回数	参加人数 / 回	延べ参加人数
コープながの、JAあづみ	国際協力田植体験	堀金烏川	5月	2	32	64
コープながの、JAあづみ	ふれあい農園	堀金烏川	4月～11月	16	32	510
あづみ野農業塾	安曇野農業塾	豊科高家	4月～3月	12	79	948
堀金公民館	農業体験講座スイカ塾	堀金	4月～8月	7	4.7	33
三郷やすらぎ運営委員会	やすらぎ農場 ふれあいセミナー	三郷温	5月～3月	10	17	170
穂高土曜農業塾	穂高農業体験塾	穂高有明	3月～12月	35	14	490
鳥川体験農場	鳥川農業体験	堀金烏川	2月～1月	20	21	420
三田体験農場	三田農業体験	堀金三田	4月～3月	61	11	671
あかしな農業塾	明科農業学習塾	明科東川手他	3月～12月	20	11	220
合 計	9箇所	-	-	183	—	3,526
行政 (農政課) ・JA ・農業委員会等	地元産農産物の使用割合把握 農産物直売所を中心に、地元農産物仕入高(売上高)調査を試行 地元農家による青空市等の拡大	通年	23年度の直売所での地元産農産物の仕入割合は5割であった。			
行政 (学校給食課) ・JA ・農業委員会 ・農家団体等	学校給食における地域食材の使用率向上	通年	地域食材使用率(目安値) 市内産：24.0% 県内産：45.1% (県への報告数値：品目数による割合)			

実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	ランク：B ・農業体験講座等は、計画どおり実施できた。 ・直売所での取扱量は地元産が約5割である。 ・学校給食において安曇野産米が全量、副食材については使用割合が伸びてきている。
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験講座等への参加人数の増加や内容の充実を図り、どのように地産地消へ結び付けていくことが課題。 ・直売所においては、地元産農産物の取り扱い比率を上げるように各直売所で努力している。しかし、生産農家の確保と冬場の出荷物の確保に課題が残る。 ・給食への食材提供については、副食材について地元産農産物を使用する割合が上がるよう、JAを中心に進めている。季節により供給の限界がある。

(8) 豊かな地下水を保全する 担当：資源・エネルギーWG (事務局：岡本)

このプロジェクトの基本事項

目的	・ どこでどのくらいの地下水を利用しているかを把握し、地下水利用のルールをつくる。	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地下水利用の現状を把握 ・ 地下水保全方策の検討と地下水保全条例の制定 ・ 地下水利用基本方針の策定 	
目標	時期	内容
	平成 24 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ アルプス地域地下水保全対策協議会との連携を図る。 ・ 地下水保全条例を制定する。

平成 24 年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政 (生活環境課) 委員会の主催 市民・事業者 委員会への参加	地下水保全対策研究委員会の開催 (回次は平成 22 年度からの通番)		
	・ 第 3 回作業部会 地下水資源強化部会、社会システム・資金調達部会	4 月 20 日	A：地下水利用実態調査 地下水涵養の取り組み 取水ルール 水質保全 負担検討
	・ 第 11 回地下水保全対策研究委員会	5 月 10 日	A：第 3 回作業部会での協議内容の報告
	・ 第 12 回地下水保全対策研究委員会 地下水保全指針案の策定	6 月 21 日	A：地下水資源強化・活用指針 原案検討
	・ 第 2 回環境審議会 地下水保全指針案の報告	6 月 28 日	A：地下水資源強化・活用指針 原案中間報告
	・ 第 13 回地下水保全対策研究委員会 地下水保全指針策定	8 月 24 日	A：地下水資源強化・活用指針 原案の確定
	・ 安曇野市長に報告	8 月 27 日	A：報告
行政 (生活環境課)・ 市民・事業者	地下水保全条例の作成 草稿と関係部門との調整	10 月 19 日 10 月 26 日	A：庁内検討会議で検討
	第 3 回環境審議会 地下水保全条例案の報告	11 月 13 日	A：報告
	パブリックコメントの実施	12 月	A：12 月 10 日から平成 25 年 1 月 8 日にかけて実施
	市民説明会の開催 地下水保全条例案の説明	12 月	A：12 月 15 日から 23 日にかけて市内 5 か所で実施
行政	安曇野市議会上程 安曇野市議会議決	平成 25 年 3 月	A：3 月 19 日議決

実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	ランク A：概ね計画通り
次年度への展望と課題	・ 条例制定後の運営・管理体制を構築する。

(9) ごみを減らそう 担当：資源・エネルギーWG（事務局：岡本）

このプロジェクトの基本事項

目的	・ 市民・事業者・行政との協働によるごみの減量、資源化および適正処理を推進し、循環型社会の実現を目指す	
方向性	・ ごみの適正分別と指導・啓発 ・ 3R（リデュース・リユース・リサイクル）の促進	
目標	時期	内容
	平成24年度末	<ul style="list-style-type: none"> 家庭系可燃ごみ排出量：13,533ton/年間(前年度比-0.87%) 136kg/一人当たり年間排出量(人口推計：99,300人) 事業系可燃ごみ排出量：9210ton/年間(前年度比-1.17%)

平成24年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政 (廃棄物対策課) ・事業者 ・市民	(安曇野市廃棄物対策課を中心に対応) 【循環型社会の形成】 ごみの適正分別指導・啓発 ・ 広報および市ホームページ掲載 ・ 小中学校の環境教育 ・ 出前講座 ・ 現地（ごみステーション）巡回指導 ・ 不適切な排出に「注意シール」添付 不法投棄防止パトロール 資源物回収日追加調査研究 高齢者の排出支援調査研究 事業系ごみの展開検査と分別収集指導 市有施設のごみ排出、資源化を検証し改善指導 粗大ごみおよび処理困難物の収集・運搬・処理体系構築 【リデュース】 ごみの減量化に向けた処理機器（生ごみ処理機、コンポスター）購入費補助 生ごみの段ボール堆肥化 ・ 生ごみの段ボール堆肥化の方法を「家庭ごみの出し方の手引き」に掲載 ・ 生ごみの段ボール堆肥化講習会開催（4回） 生ごみの水切り徹底による減量化 ・ 水切り道具の普及啓発と効果の検証 【リユース】 廃却・放置自転車の修理再生販売 【リサイクル】 緑のリサイクルに向けた剪定枝（個人が剪定した庭木等）のチップ化 家庭から出る廃食用油のリサイクル ・ 手作り石鹸を提供者と交換 ・ BDFを製造し燃料化	4月～ 随時 随時 年間 随時 随時 8月～ 11月 10月 7月27日 4月～ 11月 4月～ 4月～ 6月21・28日、8月21・29日 12月 2月 4月～ 11月 年間 4月～ 12月	A：広報掲載（4、6、7、9、12月）およびホームページ掲載 A：市内小中学校、公民館で実施 A：出前講座実施（4回）。 A：巡回指導設定実施 A：「注意シール」添付指導実施 A：パトロール実施（6月） A：一定の効果を確認した A：福祉の施策の展開において一定の効果認められる A：3月27日に実施 A：検証し改善指導を実施 A：処理体系の構築を図った A：購入補助実施 A：ホームページ掲載 A：講習会実施（計56名） A：説明会で賛同を得て展開中 A：修理再生販売実施（70台） A：剪定枝のチップ化実施（82.86t） A：手作り石鹸交換実施 A：BDF製造（1,120リットル）

実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	ランク A：概ね計画通り 家庭系可燃ごみ排出量 13,558t(前年度比-0.68%) 事業系可燃ごみ排出量 9,593t(前年度比+1.03%)
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> より具体的な生ごみ減量化対策の検討、普及啓発を図る。 事業系ごみの増加を検証しその対策を図る。また、展開検査の結果を検証し、市有施設での実証結果と併せて事業系ごみ処理の対策を検討する。

(10) 環境について教え学び、取り組む仕組みづくり 担当：自然・環境教育 WG (事務局：飯田)

このプロジェクトの基本事項

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習会や講座などを通しての環境保全への理解と参加を呼びかける。 ・ 市民、事業者、行政の環境保全活動の教育・情報体制を構築する。 	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境教育に取り組む人材の育成 ・ 環境に関する情報の蓄積と提供 ・ 環境に関する学習機会の提供 	
目標	時期	内容
	平成 24 年度	・ 安曇野環境インストラクター制度を検討する。
	平成 25 年度	・ 環境情報の整備とライブラリー化を完了させる。

平成 24 年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政・教育委員会・安曇野環境市民ネットワーク等の市民団体	環境学習プログラムの推進 ・ 小中学校での実施	通年	A : 延べ 281 日実施
	・ 公民館講座等での実施	通年	A : 延べ 24 日の実施
	・ 安曇野環境フェアへの参加	10 月 6 日 ~ 7 日	A : 出展団体 70 団体 環境活動発表会 10 団体
	環境インストラクター制度の検討 インストラクターの認定制度ではなく個々人をスキルアップさせる学習の機会の実施	通年	A : 平成 21 年に「環境市民ネットワーク」が設立され、その後、環境学習プログラムが出来上がり、市民・小中学生・各種団体等誰でも希望する講師派遣ができる体制になった。 よって、重複の内容となるインストラクター制度の必要がなくなった。
環境情報ライブラリー化の推進 ・ 市立図書館での環境関連の図書の充実	通年	B : 平成 24 年度環境関連図書蔵書の冊数 ・ 一般図書 423 冊 ・ 児童図書 132 冊 合 計 555 冊 (前年比+14 冊 ・ +約 2.6%)	

実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	<p>ランク : B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校、公民館などでの環境学習は概ね実施された。 ・ 安曇野環境インストラクター制度については、インストラクターの認定制度ではなく個々人のスキルをアップさせる学習機会の実施として検討することになった。
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野環境市民ネットワークとの連携をより深めていきたい。 ・ 市立図書館での環境関連図書をより一層充実させる。

(11) 環境マネジメントシステムの導入 担当：地球温暖化対策 WG (事務局：飯田)

このプロジェクトの基本事項

目的	<ul style="list-style-type: none"> 市の業務の環境負荷低減および定めた目標を確実に実行する。 事業者へのEMSの導入により環境負荷を低減させる。 	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> 市の業務へのEMS導入 事業者へのEMS導入支援 	
目標	時期	内容
	平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> EMSへの理解を深める。 安曇野版EMSの検討を開始する。
	平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> 安曇野版EMSの原案を完成させる。

平成24年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政	庁内EMS検討委員会の設置および運営 ・導入スケジュールの検討 ・導入に向けた研修計画の検討 ・環境基本計画庁内調整会議での検討	12月までに 平成25年 3月までに 平成25年 1月～3月	A：7月25日 庁内会議 経過報告 今後の方針 A：8月30日 庁内会議 旧豊科町 県での取り組み A：9月24日 庁内会議 システム検討 A：3月25日 庁内会議 システム検討 A：10月23日 エコアクション 21 環境 マネジメントシステム説 明会 A：12月20日 KES 環境マネジメントシ ステム説明会
市民・事業者・行政	安曇野版EMSの検討 ・他市町村の中小企業向け独自EMSの 状況と活用等の調査	平成25年 3月完了	B：「安曇野版 EMS ガイド ライン（検討用素案）」を 作成

実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	ランク：C ・検討は進めているが、行動計画策定時から実現までに長い時間が経過している。安曇野市としての対応について、環境マネジメントシステムの理解を深める必要があると思われる。
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> システム作りに向けて、庁内で教育を兼ねた「環境ISO」関連教育の実施が必要であり、職員教育の一環として組み込んで欲しい。 教育の内容としては 環境マネジメントシステムの必要性 EMSの要求事項が組織に求めるもの。など。 庁内での実施計画の策定が必要。

4 次年度へ向けて

4.1 市全体のテーマの進行

年次テーマ「安曇野の水を知り、守り、育む」については、平成 25 年度第 1 回環境基本計画推進会議において、そのまま継続するか、テーマを変更するかを検討します。

長期テーマ「地球温暖化防止にみんなで取り組む」については、本年度に引き続き展開をはかります。

市全体のテーマの展開方法としては、関連する重点プロジェクトを着実に推進するとともに、環境フェア等のイベントや広報等を通じた普及啓発を積極的におこないます。

関連する重点プロジェクト

歩いて楽しいまちづくり

豊かな地下水を保全する

環境について教え学び、取り組む仕組みづくり

イベント等でのテーマ設定

安曇野環境フェア 2013（仮称）でのテーマ設定

安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム 等

広報等での普及啓発

年間を通じた連載記事の掲載

ウェブページの活用 等

4.2 行動計画の検証・改訂

平成 20 年度に策定された基本計画に基づき、平成 21 年度に策定された行動計画は、平成 25 年度までに実現する項目を取り上げました。

次年度は、振り返りの年度と位置づけ、達成度の検証と、平成 26 年度以降の行動計画の改定をおこないます。

4.3 重点プロジェクトの推進

重点プロジェクトについては、前項に示した平成 24 年度の結果と環境行動計画に基づき、次年度の実施計画を立案して推進します。具体的な内容は、次年度当初に策定する「平成 25 年度実施計画」にて示す予定です。

重点プロジェクトごとの次年度への展望と課題を次ページに示します。

表 10 重点プロジェクト別平成 25 年度への展望と課題

重点プロジェクト名	平成 25 年度への展望と課題
CO ₂ 削減目標を設定する	<ul style="list-style-type: none"> CO₂ 排出削減のために重点実施項目を元に具体的な数値目標を定め、年度中途の経過報告結果を踏まえつつ、関係者が一体となって協力に進める必要がある。
生物多様性を維持する	<ul style="list-style-type: none"> 安曇野市生物情報報告書と安曇野市版 RDB の活用方法について、検討する。 外来種対策について、駆除の効果を測定し、今後の方向性を検討する。
森づくりを推進する	<ul style="list-style-type: none"> 里山の「めざす姿」を実現するため、次年度からは実際に現地での行動も取り入れ、現実に動き、また、森林の持つ公益的機能を考えた計画となるための検討を始める。
緑化による環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> 緑化策の多角的で広範囲にわたる施策の実施が望まれる。 学校校庭の芝生化についてはメリット、デメリットの洗い出しと今後の施策の検討が必要である。
歩いて楽しいまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 歩いて楽しいまちづくりプロジェクト(基本計画)実施対象地域の選定および実施に伴う準備が必要である。 公園の再生についても歩いて楽しいまちづくりプロジェクトの中に組み込んだ対策が必要である。
耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る	<ul style="list-style-type: none"> 新規就農者支援事業は、今後も続けていき、新たな担い手ができること期待する。 Uターン、Jターン者への支援も必要だが、Uターンした人への支援も検討が必要になってくる。 兼業農家や退職組の就農者等への支援対策の充実が必要。
地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる	<ul style="list-style-type: none"> 農業体験講座等への参加人数の増加や内容の充実を図り、どのように地産地消へ結び付けていくかが課題。 直売所においては、地元産農産物の取り扱い比率を上げるように各直売所で努力している。しかし、生産農家の確保と冬場の出荷物の確保に課題が残る。 給食への食材提供については、副食材について地元産農産物を使用する割合が上がるよう、JA を中心に進めている。季節により供給の限界がある。
豊かな地下水を保全する	<ul style="list-style-type: none"> 条例制定後の運営・管理体制を構築する。
ごみを減らそう	<ul style="list-style-type: none"> より具体的な生ごみ減量化対策の検討、普及啓発を図る。 事業系ごみの増加を検証しその対策を図る。また、展開検査の結果を検証し、市有施設での研究結果と併せて事業系ごみ処理の対策を検討する。
環境について教える、取り組む仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> 安曇野環境市民ネットワークとの連携をより深めていきたい。 市立図書館での環境関連の図書により一層の充実を図っていく。
環境マネジメントシステムの導入	<ul style="list-style-type: none"> システム作りに向けて、庁内で教育を兼ねた「環境 ISO」関連教育の実施が必要であり、職員教育の一環として組み込んで欲しい。 教育の内容としては 環境マネジメントシステムの必要性 EMS の要求事項が組織に求めるもの。など。 庁内での実施計画の策定が必要。

4.4 その他、推進会議委員（および事務局）からの意見等

1) WG と全体会の調整

- ・全体会議は5回程度でよいが、意見がまとまらないところは別途WGを持つ必要があるのではないか。
- ・実質的なWGは1回の計画。これでは少ないのではないか。意見の集約のために3回と4回の間にもう1回必要ではないか。スケジュール的には厳しくなるが。
- ・全体会議において、WG毎の話し合いの時に人が集まらなると議論にならない。スケジュールが合わなくて参加できないこともあった。グループに分かれる議論などは、日程を合わせなくてもよいのではないか。全体会とWGは別に設定すればいいのではないか。
- ・WGの議論の結果を事務局にて資料化し、全体に反映させる必要がある。（事務局）
- ・議論も必要だが、事務局である程度方向性を出してもらってもよいのではないか。

2) 市民・他部署との連携

- ・推進会議の中だけの議論では、市民の間に成果が広がっていかない。会議の進め方も大事であるが、市民や庁内他部署の関心を高めるような内容に切り替えていきたい。
- ・随時庁内会議等で周知をしているが、各担当課との計画と関連づけられて実施されているかどうかは疑問。会議で出た議論を随時発信していきたいと考えている。（事務局）
- ・推進会議に行政担当者が参加していないため、庁内に広がりにくいのではないか。委員として参加してもらってはどうか。（事務局）
- ・策定の当時からそのような意見は出ている。行政としては可能な施策と不可能な施策は仕分けていかないといけないと考えている。庁内の担当者はいつでもWGに参加することはできるので、声をかけてほしい。（事務局）
- ・他部署の職員との議論の場がなかったので、どこかで意見交換できるとありがたい。

3) 推進会議の形

- ・安曇野市推進会議がどの程度先進的なかわからない。そこを認識したい。
- ・他の市町村事例を教えてほしい。視察という方法もあるのではないか。
- ・視察については今のところ予定はしていないが、希望があれば調整してみたい。（事務局）

4) 環境市民ネットワーク

- ・環境市民ネットワークとの連携が不十分だった。市民に推進会議の結果が届いていなかった。情報をもってフィードバックしていきたい。3月30日にイベントを企画しているので是非参加していただきたい。
- ・環境市民ネットワークとの連携は継続課題。

5) 環境フェア

- ・環境フェアや委員会を、外から見た評価が自分たちではわからない。どの程度のところに我々がいるのかを知りたい。委員として何が足りないか学ぶ機会が欲しい。今後の進め方の中で、委員自身が勉強する場が欲しい。他と比較する資料、ニュースなど。
- ・環境フェアには、熱心な方とそうでない方の両方が来られる。市民の意識をもっと変える必要がある。

6) その他

- ・同じような議論が繰り返されて何を話しているかわかりにくくなった。（事務局）
- ・経過がわからない方にとって、委員会の内容を理解するのが難しい。
- ・わからない中で話を聞いていたが、言葉の内容を突き詰めていくことに苦勞を感じた。
- ・会議時間が長すぎる。途中で休憩は取ってほしい。

【まとめ】

現状・成果・課題は共有

全体会議は5回 必要に応じてWGを開催し全体会議に反映させる

環境市民ネットワークとの連携には具体的な行動を検討する（環境フェア）

【個人からの意見】

年次報告書にもあるように、ほとんどのプロジェクトは順調に進んでいます。しかし進捗状況に温度差があることもまた事実です。足踏みしているプロジェクトは、なぜ予定通りに進まないのか、その検証を真摯におこなうことが必要です。ワーキンググループと行政のプロジェクト関連部署との情報交換や意思疎通が十分でなかったのが原因の一つかもしれません。会議の進め方がまずく、同じような議論が繰り返されることもそうかもしれません。他にも多々あるでしょう。そうした反省点を踏まえて、会議の進め方や委員会のあり方そのものを見直していくことが今後必要なのではないでしょうか。

環境基本計画推進会議に参加して三期目の前半を終える事ができました。

参加した当時は意図するところの対応に苦慮した事もありましたが、次第に関連部門との連携を築き、既存の活動から環境基本計画の要素を加えた新たな推進計画とし、進捗を確認としていく事ができました。しかしながら後世に残し伝えていく将来を見つめた環境施策がまだまだ顕在化できていないと考えられ、時々刻々と変化していく世の中を見据えながら、今後の活動にその対応を加えて、より良くしていきたいと考えます。

「安曇野市消費者の会」からの団体代表者として、「環境基本計画推進会議」に参加して3年が経過しました。安全で安心出来る快適な生活環境を考えることは、大変意義のある事だと思います。一つ一つが余りにも多岐に渡っているせいか漠然と考えており、自身の行動も漫然としておりました。

すぐに行動出来る一つとして、「環境フェア」や「環境フォーラム」の実行委員として参画することでした。多くの各種団体がそれぞれの活動を通して、生活する自宅、地域、国内、地球それぞれの周辺環境のあり方を考えて、何がしかの目標を持って行動している姿に感銘を受けました。環境美化や簡単な循環をする程度の思いしか環境活動目標のない私自身の生活態度を反省しつつ、まずは、みなさんの活動を知ることから開始です。「参加してみる」「知る・学ぶ」「出来ることから行動開始する」・・・その積み重ねが大切かと思えます。その、出来る事を一つから二つへ増やす事を心がける・・・身の周りから、そんな人を一人から二人に増やす事を目標にしたいです。

「環境基本計画」の詳細についての中見直し作業をしましたが、東日本大震災の影響もあり、環境に対する市民意識の変化や高まりが見られる昨今、その浸透度・拡大が今後の課題となることでしょう。心して学び、考え、行動することを、作成した基本計画を意識しつつ、実行に移したいと思えます。

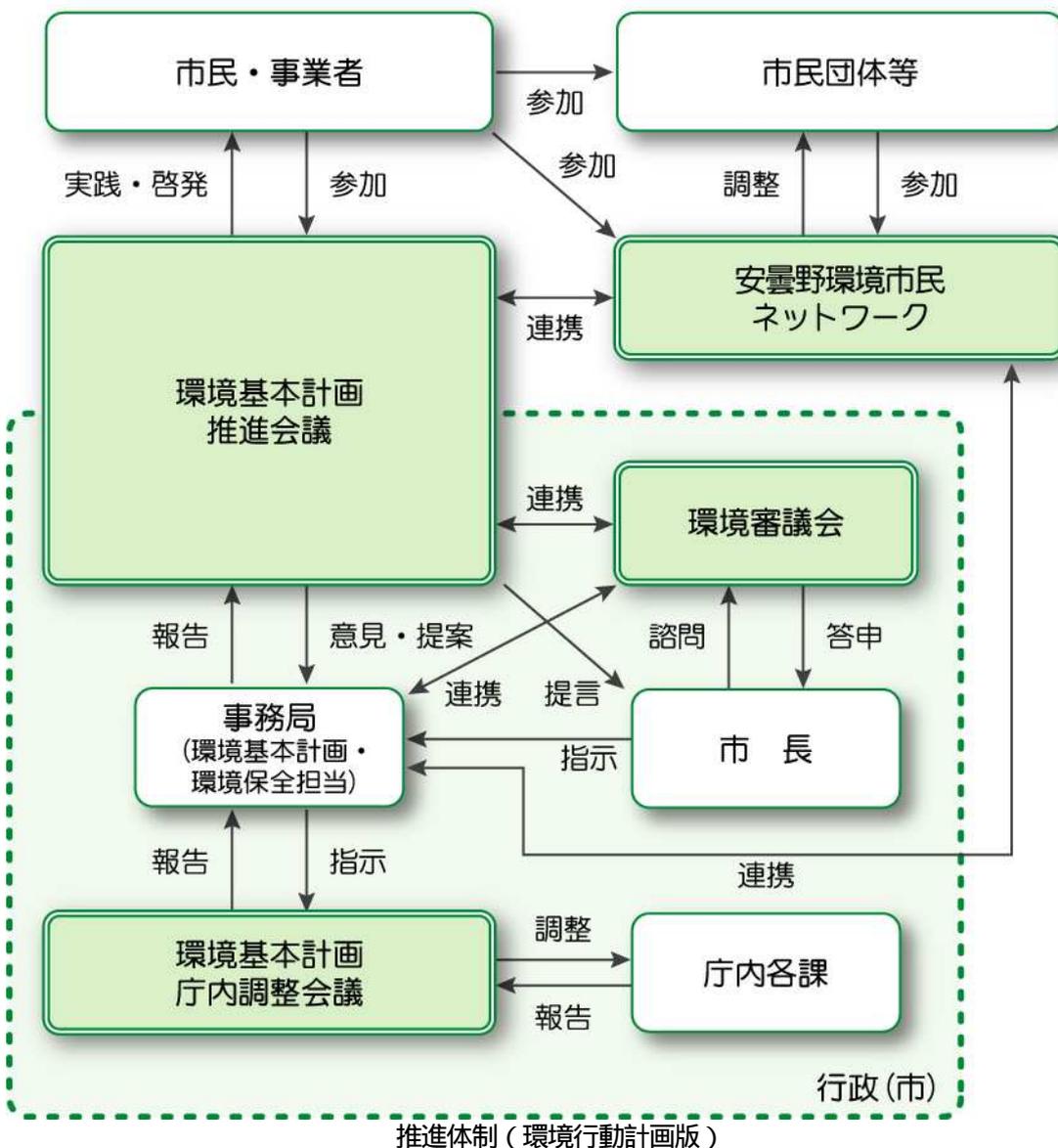
参考資料 1 : 環境基本計画の推進体制と進行管理

【推進体制】

環境基本計画は、市民・事業者・行政、その他関係する組織・団体など、さまざまな主体の各自の取り組みと、相互の連携や協働によって推進する必要があります。

環境基本計画を受けて策定した環境行動計画において定めた推進体制を、下の図に示しました。中核となるのは、市民・事業者・行政を含めた組織である「環境基本計画推進会議」であり、市全体としての計画の進捗状況の把握、課題点および対応策の検討などを行う機能です。このほか、行政内部の調整組織である「環境基本計画庁内調整会議」、専門的な見地から計画の達成・進捗状況を点検・評価する「環境審議会」のそれぞれが連携して計画の推進をはかります。

また、平成 21 年 9 月に発足した「安曇野環境市民ネットワーク」も、さまざまな市民団体などをとりまとめ、団体間の調整・連携をはかるとともに、事業者・行政との協働の窓口として機能します。



【進行管理】

環境基本計画の進行管理フローは、マネジメントの基本的なサイクルであるPDCAサイクル(計画(Plan) 実行(Do) 点検・評価(Check) 改善(Action))にしたがって進行します。

このサイクルは、毎年においては年度別実施計画に基づいた年間の取り組みと進捗状況をまとめた年次報告が基本となります。

計画する(Plan)

事務局は、環境基本計画・環境行動計画を基盤として年次の実施計画を策定します。2年目以降は、「環境基本計画推進会議」の結果である「年次報告」に基づき、「環境審議会」および市民・事業者などの意見から庁内担当各課の年次目標を設定し、年次実施計画を策定します。

実行する(Do)

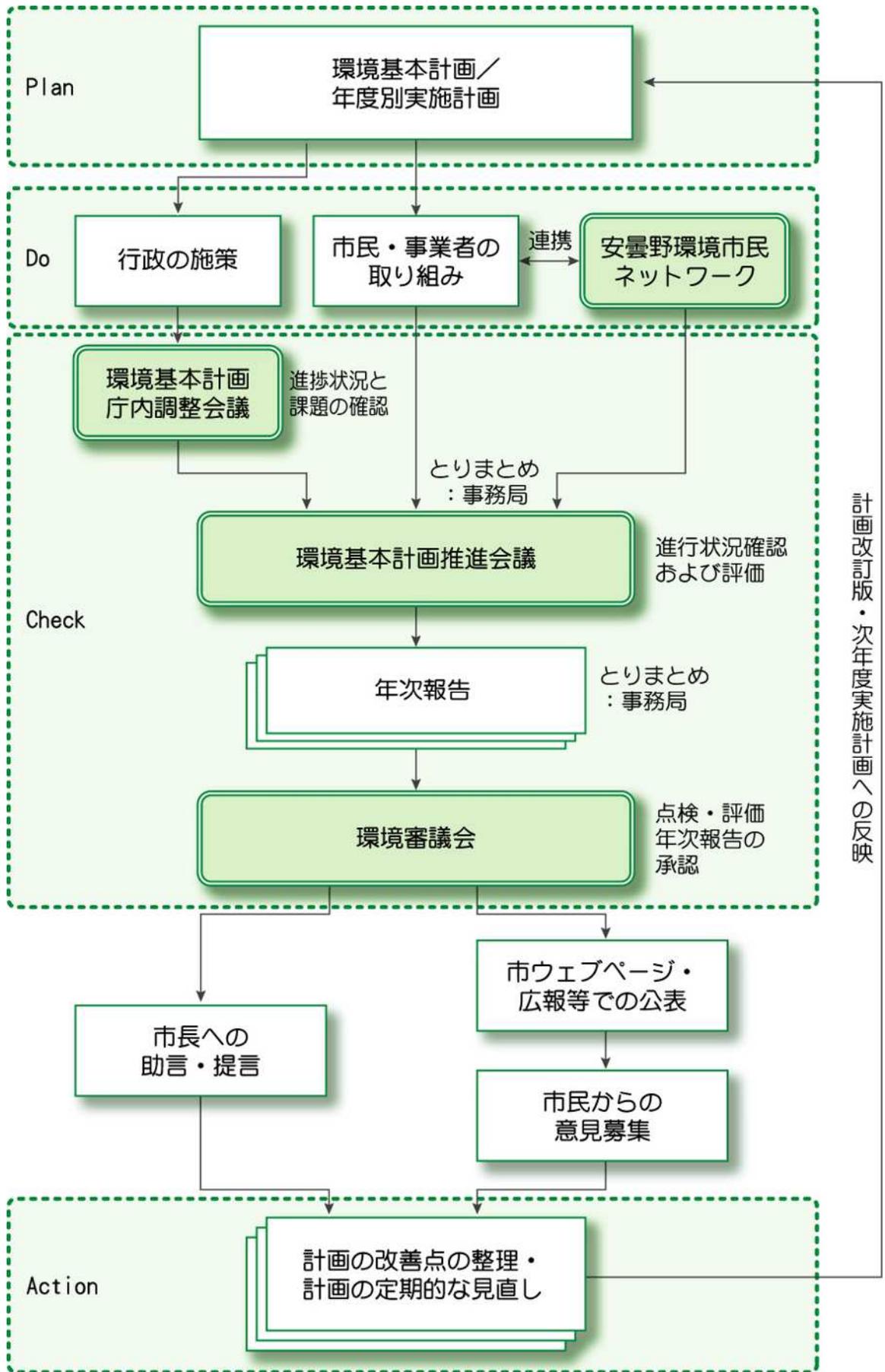
各主体は実施計画に基づき、前項の推進体制に沿って取り組みを進めます。進捗状況については、「環境基本計画推進会議」や「環境基本計画庁内調整会議」において把握し、調整を行います。

点検する・評価する(Check)

事務局は、実施計画に基づき行った取り組みの結果について集約を行い、各会議に報告します。「環境基本計画推進会議」では、市全体の取り組みの結果を集約し、「年次報告」を作成します。「年次報告」は「環境審議会」での点検・評価を行うとともに、広く市民・事業者公表して意見を募ります。

見直す・改善する(Action)

事務局は、「環境審議会」での点検・評価結果、および「年次報告」に対して寄せられた意見について対応を検討し、次年度の年次実施計画への反映と、必要に応じて計画の見直しを行います。



進行管理（環境行動計画版）

参考資料 2 : 安曇野市環境基本計画推進会議委員 名簿

(任期:平成24年4月1日~平成26年3月31日)

役 職	氏 名	所属など	区 分	備 考
会 長	千國 温	旧環境基本計画策定委員	市長推薦	
副会長	植松 晃岳			
委員	川井 敏克	安曇野市商工会	事業団体代表	
	本木 修一	安曇野工業会		
	中嶋 勝美	安曇野市農業委員会		~平成24年8月 農業委員改選による
	丸山 多江			平成24年8月~ 農業委員改選による
	青柳 聡	J A あづみ		
	望月 静美	安曇野市消費者の会	環境関連団体代表	
	岡江 正	長野県建築士会 安曇野支部		
	太田 忠雄	安曇野市地球温暖化 防止活動推進協議会		
	田村 恵子	安曇野環境市民ネットワー ク		
	寺島 次男		公募委員	~平成25年1月 辞任
	百瀬 智之			~平成25年1月 辞任
	樋口 嘉一	旧環境基本計画策定委員	市長推薦	
	宮崎 崇徳			
近藤 真奈美				



推進会議の様子 (平成24年5月22日)



推進会議の様子 (平成24年11月20日)

参考資料3：写真アルバム 【環境フェア】



パネル設置中（前日準備）



市長あいさつ（1日目）



環境活動発表会（小・中学生の部）



オルゴールコンサート



映画上映会&トーク



エコグッズコンテスト表彰式



屋外ブースの状況



ブースの状況



パペットシアター



スタンプラリー景品交換所



環境活動発表会（学生・一般の部）



積み木コーナー



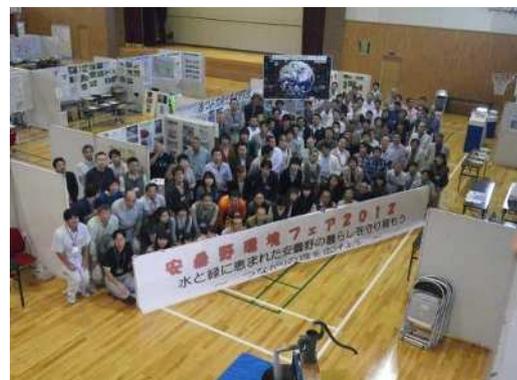
三角島スケッチ大会表彰式



見城美枝子氏特別講演会



循環バスの運行



集合写真撮影

参考資料4：イベント参加団体一覧

【安曇野環境フェア 2012】

出展団体（分類ごとの五十音順）

分類	団体名	分類	団体名
環境全般	安曇野環境市民ネットワーク	生活	関東農政局 松本地域センター
	安曇野工業会		(株)キクイチ
	安曇野市環境基本計画推進会議		NPO法人 CO2バンク推進機構
	安曇野市地下水保全対策研究委員会		生活協同組合 コープながの
	安曇野市地球温暖化対策実行計画		生活クラブ 生活協同組合
	安曇野市地球環境温暖化防止活動推進員協議会		(株)ちくま精機
	キッセイ		(一社)長野県環境保全協会中信支部
	(株)サクセン		マックスバリュ長野(株)
	信州大学松本キャンパス環境ISO学生委員会		松本市消費者の会波田地区
	3Rおじさん		(株)ランド・エコ
	セイコーエプソン労働組合		景観
自然	安曇野市アレチウリ等外来植物駆除プロジェクト	環境学習	安曇野百選プロジェクト
	安曇野市里山再生計画検討委員会		安曇野まちなかにぎわいプロジェクト
	安曇野市版レッドデータブック作成委員会		アルプス花街道実行委員会
	安曇野緑の会		三角島ふるさとの森プロジェクト
	烏川渓谷緑地・市民会議		NPO法人 信州ふるさとづくり応援団 安曇野支部
	NPO法人 川の自然と文化研究所		屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト
	関東農政局 中信平二期農業水利事業所		安曇野市社協・ささえあいセンター「にじ」
	信州ツキノワグマ研究会		エクセラン高等学校
	信州 水環境マップ・ネットワーク		持続可能な松本平創造カンパニー わおん
	田淵行男記念館こども自然観察教室「むしの会」		積み木であそぼうコーナー
	松本地域林業再生協議会		トゥモロウ・リーディング・倶楽部(TLC)
	三郷昆虫クラブ		(一社)長野県環境保全協会
	NPO法人 森倶楽部 2 1		マイ箸づくりサポートボランティア
	農業		nano花隊
のらのら応援隊		安曇野市耕地林務課	
バジルクラブ		かえる 3 1 1	
生活	あづみ太陽光発電研究会	建築	(株)角藤 中南信支店
	あづみ野建設労働組合		(有)唐木電設
	安曇野市下水道課・安曇野建設事務所・(財)長野県下水道公社		(株)竹村製作所
	安曇野市消費者の会		中部原子力懇談会
	安曇野市食育推進会議		デュプロ(株) 松本営業所
	安曇野市生活環境課・安曇野防犯協会連合会		野尻トーヨー住器(株)
	安曇野市廃棄物対策課		(株)モキ製作所
	NTT東日本 長野支店		安曇野建築三会

参考資料5：重点プロジェクトの取り組み状況

ここでは、本年度取り組んだプロジェクトごとの成果物や実施状況の写真などをご紹介します。

生物多様性を維持する アレチウリ駆除活動



(平成 24 年 7 月 28 日)

第 1 回生きもの調査説明会



(平成 24 年 5 月 19 日)

森づくりを推進する 森林（もり）の里親促進事業



(平成 24 年 4 月 29 日)

森林（もり）の里親促進事業



(平成 24 年 5 月 19 日)

緑化による環境負荷の低減 緑のカーテン



(平成 24 年 9 月 6 日)

歩いて楽しいまちづくり 歩いて楽しいまちづくりプロジェクト現地踏査



(平成 24 年 6 月 14 日)

地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる
安曇野の日



(平成 24 年 5 月 21 日)
安曇野市北部学校給食センター
月一回「安曇野の日」献立があり、その日を中心
に地域食材をより多く使った給食が作られる。
地域食材：ごはん・ニジマス・もやし・えのきだけ・
豆腐・油揚げ・みそ・黒豆

ごみを減らそう
段ボール箱で生ごみ減量講習会



(平成 24 年 6 月 28 日)
豊科リサイクルセンター

本年度まとめた環境学習プログラムの一覧

	プログラム	団体名等
1	快適住まいづくり相談 (省エネ・耐震・高齢化対策等)	安曇野建築三会
2	じっくりみよう 学校のまわり (景観教育プログラム)	
3	マツ枯れ被害木によるアカゲラ 巣箱づくりとマツ枯れ予防	安曇野再活の松プロジェクト
4	家庭でできるプチエコアクション	安曇野市消費者の会
5	地球温暖化防止活動/ 中小企業のEMS 支援	安曇野市地球温暖化防止活動推進員協議会
6	景観ウォークラリー	安曇野百選プロジェクト
7	ふるさとウォッチング	NPO 法人 安曇野ふるさとづくり応援団
8	ぬかくど炊飯体験	
9	桜の観察会・苗木の植樹	安曇野緑の会
10	花のじゅうたん作り体験	アルプス花街道実行委員会
11	河川の自然観察会	NPO 法人 川の自然と文化研究所
12	三角島の自然と景観の紹介	三角島ふるさとの森プロジェクト
13	拾ヶ堰の歴史と自然観察	拾ヶ堰応援隊
14	ツキノワグマの生態・対処法	NPO 法人 信州ツキノワグマ研究会
15	田淵行男の人と業績	田淵行男記念館 こども自然観察教室「むしの会」
16	搾油体験	nano 花隊
17	段ボール堆肥づくり	
18	循環型農業の実践を通じた学び	バジルクラブ
19	キャンドルナイトの企画	100万人のキャンドルナイト in 安曇野実行委員会
20	マイ箸・箸袋づくり体験	マイ箸づくりサポートボランティア
21	楽しい里山での体験学習	NPO 法人 森倶楽部 2 1
22	屋敷林の紹介	屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト
23	バードウォッチングと安曇野の野鳥	野生生物資料情報室
24	安曇野の自然	
25	里山歩きと安曇野の自然	
26	安曇野自然案内人養成講座	